

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	家庭		
担当者(Instructors)	加藤 祥子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)			
<p>児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計を理解し、教材の効果的な活用法を習得し、授業設計に生かすことができる。学習指導案の意義と目的を理解し、具体的な授業を想定した授業設計に基づく学習指導計画ができる。教材研究を行い、その振り返りを通して授業改善の視点を身につける。</p>			

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	4、4、4、3コマの集中講義で行う。縫製教材の作り方、グループディスカッションによるグループワーク、発表も行う。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 講義の概要	小学校家庭科の教科書を見ながら講義全体のアウトラインを説明する。検討や発表のための班編成を行なう。	<input type="checkbox"/>
第2回	小学校教科書の復習1 実習	領域別に見て行き、特に時間を要するに実習について考える。	<input type="checkbox"/>
第3回	小学校教科書の復習2 被服とのクロスポイント	領域別に見て行き、被服とのクロスポイントについて考える。	<input type="checkbox"/>
第4回	小学校教科書の復習3 現代社会	領域別に見て行き、特に現代社会と切り離せない項目について考える。	<input type="checkbox"/>
第5回	指導法の検討1 実習	時間を要するに実習についてその指導法、準備などについて検討する。	<input type="checkbox"/>
第6回	指導法の検討2 被服領域	被服領域とその他の領域、教科の重なりを利用して、被服領域の深い追求を行う。	<input type="checkbox"/>
第7回	指導法の検討3 教材研究	第8回から行う被服の教材研究について効果的な作り方を検討、学習指導要領を踏まえた教材作りになるよう内容を吟味する。	<input type="checkbox"/>
第8回	教材研究1縫う 手縫い	手縫いの基礎を練習し、自信を持って指導できるようにする。	<input type="checkbox"/>
第9回	教材研究1作る 手縫い	裁断を含む布の取り扱い方を学び、手縫いによる作品の完成を目指す。	<input type="checkbox"/>
第10回	教材研究1完成する 手縫い	手縫いの作品を綺麗に完成させる。	<input type="checkbox"/>
第11回	教材研究1の発表 手縫い	できあがった手縫いの作品の自己評価をしながら、他との違いを検討して次の教材に活かせるようグループで話し合い、発表する。	<input type="checkbox"/>
第12回	教材研究2縫う ミシン縫い	ミシン縫いの技術を解説して、自信を持って教えられるようにする。	<input type="checkbox"/>
第13回	教材研究2作る ミシン縫い	ミシンを使い、作品を作る。	<input type="checkbox"/>
第14回	教材研究2完成する ミシン縫い	ミシン縫いの作品を完成させる。	<input type="checkbox"/>
第15回	教材研究2の発表 ミシン縫い	でき上がったミシン縫いの作品を自己評価しながら、他との違いを考慮し、効果的な指導法や準備についてグループで話し合い、発表する。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習（予習・復習）の内容 (Preparation/review details)			
<p>実習についての指導法は、その準備を含めて考える。他領域、他教科との繋がりを意識して検討すること(概ね1時間程度)。教材の検討、事前の準備を通して自信を持って指導できるよう、復習も必要である。都度指示する。復習については、概ね3時間程度必要となる。各作品の完成と同時に、自己評価を行ない、グループで話し合う際に、続く教材に活かせる内容となるよう準備する。</p>			

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業の中で課題を検討、発表して考え、他の意見を加味して実践する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を習得できている。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	現代の教育現場に存在する多種多様な問題や課題に向き合う事のできる指向力、判断力を持ち豊かな表現力を習得できている。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	小学校、幼稚園での教育に主体的に携わることのできる幅広い人間力を体得している。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

作品の完成度、授業内での小論文、学習態度、出席遅刻の有無などを総合的に評価する。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領解説 家庭編」(平成29年6月告示 文部科学省)	
2	「新しい家庭5・6」東京書籍	
3	「小学校学習指導要領 家庭」(平成29年3月告示 文部科学省)	
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		